



小国町立小国中学校

令和 4.12.23 (金) No29

文責 狭間卓史



「新たな伝統・・・制服披露」

今週20日(火)に来春から導入する新しい制服の中学生向けお披露目会を本校体育館で開催しました。

この新制服導入については一昨年の八年生(現高校一年生)の「総合的な学習の時間」での学習に端を発します。この学習の中でLGBTQ(自分らしさを発揮出来る多様性)の視点に学んだ生徒は、居心地の良い学校づくりの一つとして、着心地の良い制服づくりをめざしました。その具体的な提案は昨年の五月からの取り組みとなりますが、児童生徒のみならず小中学校保護者の皆様方にもアンケートでご意見を伺いながら進め、最終的には学校運営協議会に判断いただいで導入決定でした。

その後、本年度一学期から制服導入の基本方針の決定や生地とネクタイ・リボンのデザイン選定等の作業を経て今回のお披露目となりました。

【新制服導入の基本方針】

- ①従来の制服を第一制服とし、今回、新たに導入する制服を第二制服とすること。(数年間の移行期間を経て第二制服に統一する。)
- ②第二制服の上着は、小国高校のブレザーを着用する。
- ③スラックス・スカート、ネクタイ・リボンは小国中独自のデザインとし、なおかつ選択制とすること。

【ブレザー選択の理由】

- ①ブレザーはスラックスにもスカートにも合うデザインであり、スカートを着用することを好まない生徒にとっては、スラックスとスカートを自由に選択出来る制服は、快適な学校生活につながると考えたこと。(LGBTQの視点を取り入れた制服)
- ②小国町の冬の寒さや、自転車通学生の安全面を考慮してもスラックスは合理的であり、生徒と保護者の意向で選べる制服にすることが快適な着心地の良い制服になると考えた。そのためには、ブレザーの方が組み合わせの選択肢が広がると考えたこと。

【小国高校ブレザー着用理由】

- ①小国高校の新ブレザー(令和5年4月導入)は、ボタンが左右切り替え型になっていることや、高校と同じブレザーにすることで、リユース(再利用)しやすくなり、長期的視点で見れば制服にかかる費用を抑えることが期待出来るのではないかと考えたこと。それは何よりも地球環境に配慮したSDGs制服であり、小国町の町作りの方針に合った制服だと言えること。
- ②小国中学校と小国高校は中高一貫校であることから、そのシンボルとして位置づけることが出来ると考えたこと。
- ③小国高校の新ブレザーは、袖口のボタンの代わりに刺繍が入っている。これは、生徒一人一人に配置されているタブレットの画面を傷つけないように配慮されたICT仕様になっていること。

【スラックス・スカート・ネクタイ・シャツを小国中独自のデザインにしたこと】

- ①新制服導入に反対された方の意見の中に、「伝統ある小国中の制服を(我が子に)着てほしかった」という趣旨の意見があり、素晴らしい意見だと着目した。新しい制服が、30年後、50年後にも伝統ある小国中の制服として大切に思ってもらえるように、中学校独自の要素は残しておきたかったこと。

【再生ポリエステル導入について】

- ①新制服の素材としてSDGsの視点では魅力的だが、金額が高額になりすぎるため断念した。今後、この素材が一般的になり、金額が下がった時点で導入を検討する。



【完成しました】

新制服の導入については上記のとおりですが、そのデザインに込められた生徒の思いは、また別の機会にお伝えします。